

## NO WAR ウクライナに平和を！

2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻しました。戦争が本当に起こるとは考えてもいませんでした。プーチン大統領は市民には砲撃しないと宣言しましたが、子どもも含む市民の死者は毎日増え続けています。日々伝えられるすさまじい砲撃を受けて破壊した建物の近くで「早く戦争を止めて！」「私たちに助けて」のウクライナ市民の声に「誰もが平和に生きる」権利が奪われることがどんなに許せないことかと憤りを覚えます。



3. 13札幌駅前でのスタンディングに220人が参加しました。(撮影・Minako)

3月4日の「天声人語」の一節に涙がこぼれました。「ママ、訓練じゃないんだ。本当の戦争が起きている。怖いよ」「ぼくたちは、町中を爆撃している。民間人まで標的にしている。歓迎されると聞かされていたのに」。ウクライナで戦死したロシア兵がスマホに残した言葉です。このやり取りを公開したのは、ウクライナの大使が国連総会ででした。ロシアではSNSが禁止されたり、戦争に反対する市民運動に参加した人々が逮捕されています。プーチンはさらに報道統制を強化し「フェイクニュース」とみなした場合は記者らに対して最大15年の禁錮刑にすると報じられています。報道の自由が奪われ、ロシア市民の声も伝わらなければ、ナチスと同じになってしまいます。

侵略開始と同時にチェルノブイリ原発を占拠。さらに欧州で最大規模のザポロジエ原発を攻撃しました。広島、長崎に核爆弾を落とされた被爆

国として断じて許せません。

私はチェルノブイリ原発事故後、原発反対の運動に関わりましたが、あんな事故は二度とないと漠然とっていました。しかし、11年前の3月11日の福島原発事故を経験し、泊原発の廃炉をめざす会で原発をなくそうと運動しています。

世界中で起きた戦争で、普通に暮らす多くの市民が犠牲になりました。その体験を通して、誰もが平等に平和に生きる権利を守ろうと決めたのではありませんか。

「岩波ホール」閉館のニュースで2013年に友人と観た「ハンナ・アーレント」を思い出しました。アウシュヴィッツの大虐殺の責任を問われたアイヒマンは「ヒトラーに服従しただけだ」と裁判で答弁した時、哲学者のハンナ・アーレントは「思考をやめたとき、人間はいとも簡単に残虐な行為を行う。思考をやめた者は人間であることを拒絶したものだ。私が望むのは考えることで人間が強くなることだ」と主張しました。プーチンは思考を停止したとしか思えません。

そうであっても新聞やテレビは「戦争を止めよう」と言い続けてほしい。私も街に出て「戦争反対！」と声を上げたい。

モスクワのゴルバチョフ財団が2月26日、一刻も早い戦闘停止と和平交渉を呼びかける声明を出しました。元ソ連大統領で財団総裁のミハイル・ゴルバチョフさんは現在91歳。米ソ冷戦を終結に導き、1990年にノーベル平和賞を受賞しています。「2月24日に始まったウクライナでのロシアの軍事作戦に関連し、一刻も早い戦闘行為の停止と早急な平和交渉の開始が必要だと我々は表明する。世界には人間の命より大切なものはなく、あるはずもない。相互の尊重と、双方の利益の考慮に基づいた交渉と対話のみが、最も深刻な対立や問題を解決できる唯一の方法だ。我々は、交渉プロセスの再開に向けたあらゆる努力を支持する」戦争を起さないのは歴史の叢智です。

# ロシアのウクライナ侵攻、世界の声

## Invado al Ukrainio, voĉoj el la mondo

第二次世界大戦が終わって、それなりに平和な世界の構築が出来、テロの攻撃ならいざ知らず、大国が小国を併呑しようとする戦争が起きるとは夢にも思いませんでした。無益な戦争に駆り立てられるロシアの兵隊、それに必死で立ち向かうウクライナの兵士、市民。隣国へ避難する女性、子ども、老人と、見ていられない光景で、コロナどころではない恐ろしさを感じます。何をしても心の中に重いものがあって、明るい気持ちになりません。せめてもと、エスペ란チストからの声を集めてみました。(エスペラント作家・堀泰雄)



★ウクライナはすでにどこも戦場です。オデッサ、キエフ、ハリコフ、マリウポリ、ヘルソン、リボフ、カホフカの各都市は、2日間でロケット

によって破壊されました。安全な場所は1つもありません。ロシア兵士は10倍多く、技術はより豊富で近代的です。誰かからの外部のサポートがなければどれくらい抵抗することができますか？ ロシア軍の手に落ちたクリミアのウクライナ人に何が起こったのか知っていますか？ 彼ら全員がロシアの市民権を受け入れることを余儀なくされ、同意しなかった人は、仕事、勉強、買い物や、郵便や銀行のサービスの利用などを許可されませんでした。多くの家族が逃げました。残って抵抗した人々は殺されました。誰もその運命を望んでいません。★現在、ウクライナのすべてがその存在のために戦っています、そして誰もその戦いを助けていません。アメリカとヨーロッパの国々は、彼らの軍隊を送らないと言っています！ 彼らは戦争が近隣諸国に来ないことだけを気にかけています。以前、ロシアのプロパガンダは、ウクライナがロシアを脅かしているという誤った主張でメディアを混乱させました。(想像できない！) ウクライナの領土に米国の基地があるというのは嘘！ です。ウクライナのために闘うアメリカ兵は一人もいません！ ウクライナ人は一人ぼっちで、滅びようとしています。

(最初の文も含めてチェコから2月26日オルガ)

★今多くの人々は戦争がウイルスのように広がることを恐れています。政府は、金銭的損失、政治的、ビジネス的、地理的影響などを計算しています。80年の間に、ヨーロッパ諸国は古い兵器を破壊し、共通の平和な未来を望んでいました。紛争が起こっても、それらは遠く離れており、私たちに関係ありません。しかし今日の状況はまったく異なりますが、ヨーロッパの反応は遅すぎて効果的ではありません。2014年のロシアの攻撃的行動がより厳しく罰せられていたら、この戦争は起こらず、ヨーロッパの平和も脅かされることもなか

ったと思います。そう考えるのは私だけではありません。手紙の中で、私はウクライナの一部であったクリミアのロシア併合と、それに続くドネツクとルガンスクのウクライナ地域の崩壊を指摘しました。これらの重要な工業地域は、ウクライナからのすべての公式の抗議にもかかわらず、国からもぎ取られました。しかし、ヨーロッパ諸国はロシアの攻撃的な行動を止めるためにほとんど何もしていません。ウクライナ人自身が責任を負うべきかどうか、またはウクライナの一部のロシア語を話す市民が責任を負うべきかどうかについて、長い間話し合われてきました。合同会議や会議で鋭く反応した政治家はいなかった。さらに、地図上では、それらの地域のみがロシア領として描かれていました。クリミアの併合により、ロシアはいくつかの制裁を受けましたが、それほど大きな制裁は受けていません。2年後、プーチンは貿易関係を妨げているため、制裁を停止する必要があると言いはじめました。ほとんどすべてのヨーロッパ諸国はロシアと貿易関係を持っていました。それで、ウクライナはこのひどい不正を耐え、外交手段を通して問題を解決しようとした。しかし、プーチンは戦争の言語しか理解していません。(2月28日 オルガ)

★平和に暮らすことは私たちに何の費用もかかりません！ 戦争はナンセンスであり、感謝の思いもなく、宇宙の経済法に完全に反するものです。兄弟的で、友好的で平和であれ。(2月28日ブラジル・Dirce)

★こんにちは。オデッサではまだ平和な空です。(3月1日ウクライナ・タチアナ)

★ロシアの侵略、ありえないことで世界を不安にしています。オデッサ、映画「戦艦ポチョムキン」に出てくる街なのではないでしょうか？「晴れた空」が続くことを祈ってます。(3月2日日本・はぎゅうだ)

★私も平和を願っています！ 現在、ウクライナ人と戦争難民を支援するための資金を集めるためのコンサートが開催されています。コンサートはプラハで最も有名な広場で行われ、最も人気のあるチェコのミュージシャンが演奏し、歌います。プラハにウクライナの避難民を乗せた列車が到着しました。多くの場所で受け入れ準備を完了しています。(3月2日・オルガ)

★私たちは皆、戦争を恐れ、心配しています。私たちは、戦争がすぐに終結し、各国のすべての指導者が合意に達することを祈るだけです。(3月2日ブラジル・ケリ)

(カットは堀泰雄さん)

# 放射能汚染が及ぼす道民への影響

関東から避難してきた者からの報告と提言 中村由紀男

## 一家で北海道へ避難

私たちは家族総勢9人、関東地方から北海道へ、放射能避難でやってきました。こんなことを言うと、福島でも東北でもないのに、多くの人が「???だ」と思います。

息子は、3.11直後に東京にも降り注いだ汚染雨を重度知的障害児の息子(私の孫)に浴びせたことを後悔し、避難所などではとても生活できないと、すぐ北海道へ。その障害児のケアのため何回も埼玉と北海道を往復した私は、北海道が好きになってしまったこともあり、北海道を終の住



処に選びました。夫の実家がある栃木に住んでいた娘は、ホットスポットが近くにある家庭菜園の土もセシウム濃度が高いことがわかり、2年がかりで機械エンジニアの夫君を説得してやってきたのです。

福島原発事故による放射性物質のプルームは静岡や長野に至るまで降

写真・群馬大学のホームページから

り注ぎ、関東地方にもあちこちにホットスポットがあります。事故直後、私の妻は東京多摩地区のとある小学校に勤務していたのですが、敷地内の一部を密かに当局が「除染」している光景を見ました。ここはホットスポットでもないのですよ。公表されている空間線量だけだと、線量の高い地域は今やさほど多くないように見えますが、東京でも、下町や山間部の土壌はかなり汚染されています。政府が土壌汚染度を調査しないから、市民がつくる全国の放射能測定所が協力して3,400地点の土を測定したデータで判明しました。東京の放射能汚染は、チェルノブイリ法では「特別に社会保障や恩恵がある居住ゾーン」以上であった地域があるのです。

## ストロンチウム汚染の実態

福島原発事故は今も収束しておらず、廃炉の見通しさえ立っていません。原発と原爆は科学的に同じ原理で、むしろ原発の方が桁違いに放射能汚染するのです。原発1基で広島型原爆の1,000倍以上の放射能を毎年生み出しているのです。使用済み核燃料を安全に貯蔵・処分する方法はありません。

各地の放射能汚染は、前述したものはほとんど3-

セシウムによる汚染ですが、それ以外にも放出された核種がかなりあります。セシウムと同量程度放出されたはずのストロンチウムはほとんど明らかになっていません。これも、現政府が測定しないからです。皮肉なことに他国の政府や専門家が測ったデータはあり、日本政府も福島事故以前には測っていたのです。ストロンチウムはなかなか測定が困難な核種ですが抜けた乳歯を集めて測定すると、汚染の実態がよくわかるのです。そのデータによると、大気圏核実験によって日本にもストロンチウム汚染が広がったことは周知の事実です。

福島事故後の実態を把握するために、乳歯中のストロンチウム濃度を測定するための会社をやはり市民と専門家が立ち上げ、稼働を開始しています。

## トリチウム汚染水の放出

今まさに福島原発で問題になっているトリチウム放出問題。トリチウムはエネルギーが低いのでその放射能は問題ないという、「原子カムラ」方面からの吹聴がありますが、とんでもないのです。水素原子の同位体ですから、容易に水の中に紛れ込み、水分の多い人間の体の隅々にも入って、近傍の細胞のDNAを破壊したり物質の化学構造式まで改変してしまいます。

実際、アメリカの原発稼働地域と乳癌罹患率の分布には見事なぐらいの相関関係が見られます。泊原発周辺の町村では、癌による死亡率が北海道の1位?3位を占めています(稼働時)。この点でも、泊原発の再稼働はすべきではないのです。

## 食品からの内部被曝

原発は、事故に限らず上記のように通常運転時、燃料の再処理・貯蔵時に放出される放射性物質による内部被曝(体内被曝)も恐ろしいのです。放射性物質は、呼吸と飲食そして皮膚を通じて体内に入ります。外部被曝は放射性物質から離れることによって被曝回数や強さを軽減することができますが、内部被曝は放射性物質が体内に留まる限り一生被曝が続きます。

内部被曝により、細胞にある染色体が破壊されたり改変されます。食物連鎖によって、より大きな問題となります。ここまで飲食・吸入しても安全という閾値はありません。

「原子カムラ」では、この内部被曝を無視、または過小評価してごまかしているのです。彼らは「食物の中にも天然の放射性物質がある」とも言いますがカリウム40などは長い進化の過程で人間の体が対応してきたのです。自然核種と人工核種を同列に扱ってはいけません。

北海道民に対する放射能汚染は、泊原発が大きな問題を起ささない場合でも、この内部被曝が最大の問題となっています。

純粋な北海道産の農作物ならほとんど問題ありませんが、冬場などは本州からたくさんの農産物が入ってきますし、海のものには太平洋側で獲れた産物などに注意が必要です。山のものやジビエと呼ばれる野生鳥獣類から高いレベルの放射能が検出されることが多いです。

100ベクレル/kg以上のものを流通させてはいけないようになってはいますが、測定頻度があまりにも少ないし、そもそもその基準は事故前では問題だったレベルなのです。厚労省が発表しているデータだけでも、東北や関東などでは依然として放射能が検出されています。

福島原発事故後、流産・乳児死亡率、周産期死亡率が増加しているデータが医療の専門家たちによって明らかにされました。チェルノブイリ原発事故後の健康被害のデータからも明らかなように、内部被曝の影響が顕在化してくるのは、むしろこれからなのです。

### 泊原発を再稼働させてはいけない

そもそも、こんなに地震の多い日本に原発をつくるが大間違いだったわけですが、泊原発にも活断層があることがもはや明らかであり、前述したような様々な問題もあるわけですから、もはや再稼働は絶対にすべきではありません。倫理上も許されないことで、経済的にも破綻しています。

私の場合はさらに、北海道に移住した意味がなくなるようなことをやめてもらいたいのです。

## 治安維持法と伊藤千代子 増子 捷二

日本の歴史上、私たちが世界に誇ることが出来るものの代表例が現在の「平和憲法」であるならば、世界に恥ずべき負の遺産の代表例が「稀代の悪法・治安維持法」であろう。治安維持法は1925年(大正14年)に制定された後1928年(昭和3年)、1941年(昭和16年)に改悪され適用対象者を更に拡大した。宗教団体、学術研究会、芸術団体、学校の教師や全く関係の無い団体の責任者、更には一般人までが無差別に近い状況下で摘発された。

治安維持法が1925年から廃止されるまでの20年間に、逮捕者数10万人、検挙された人は約7万人、警察で虐殺された人93人、刑務所・拘留所での虐待・暴行・発病等による獄死者は400人余にのぼっている。世界では、ドイツ、イタリア、アメリカ、カナダ、韓国、スペイン、イギリスなど主要な国々で戦前、戦中の弾圧犠牲者への謝罪と賠償が進んでいるが、日本政府は謝罪も賠償もしていない。

日本弁護士連合会主催の人権擁護大会は、「

治安維持法犠牲者は日本の軍国主義に抵抗し、戦争に反対した者として・・・その行為は高く評価されなければならない」と指摘している。「治安維持法犠牲者の名誉回復をはかり、謝罪と賠償を求める」団体として国賠同盟(治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟)が1968年に創立され、毎年国会請願を続けている。

北海道でも凶画事件、綴り方教室事件等で教員が検挙された。その一端は佐竹直子著『獄中メモは問う』(2014年出版・道新選書に詳しい)。

3.15事件(日本共産党員の全国的大検挙)で検挙された中に23才の伊藤千代子がいた。彼女は東京女子大在学中に、様々な社会悪を目のあたりにして社会科学の勉強を始め、諏訪の織物工場の女工の闘いストライキ等を応援しながら活動を続けた。市ヶ谷刑務所には塩沢富美子(後の野呂栄太郎夫人)もいた。しかし度重なる拷問で体調を崩し、治療されることもなく24才の若さで急逝した(1929年)。

藤田廣登氏をはじめ、多くの方々によって伊藤千代子の掘り起こし調査が続けられ『伊藤千代子の生涯』の映画化が決定した。この4月にも東京で試写会があり、その後全国でも上映が予定されている。

『時代の証言者 伊藤千代子』(藤田廣登著)が、ワタナベ・コウ氏によって漫画化され、『伊藤千代子の青春』として出版された(新日本出版社)。漫画とは言え、数多くの資料と現地に数多く足を運んだ著者ならではの内容で、千代子が生きた当時の様々な社会背景が脚注として入っており、文字通り「生きた社会史・歴史書」となっている。是非多くの皆さんに読んで頂きたい好著である。

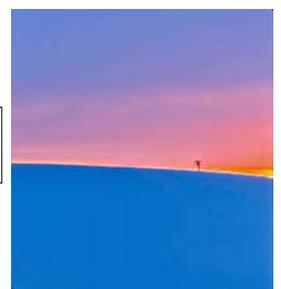
『獄中メモは問う』は銀河通信191号(2015.9.25)で紹介しています。今、ロシアでは「戦争反対」とデモをした人々が逮捕されています。同じ過ちを犯してはならないと思います。(み)



黄色い「ミモザ」が温室内でとても綺麗に咲いてました。3.8「国際女性デー」は「ミモザの日」とも呼ばれます。イタリアでは男性から感謝を込め女性に花束を贈る習慣があるそうです。3月4日札幌百合が原緑のセンターで。(撮影・高橋備さん)

3.3折りの朝焼け (撮影・Minako)

ご寄稿頂きながら掲載できなかった文章は次号に掲載します。



# 本 BOOKS



無限の自由を追求した  
ジャーナリスト

筑紫哲也  
『NEWS23』とその時代

金平茂紀著 講談社 2,200円

田一

TBSキャスターとして、日本の報道番組の新たな地平を切り開いた筑紫哲也さんが、2008年に亡くなって13年が過ぎました。あんなニュース番組はなかったので、私も楽しみでした。本も当時を活写しています。

金平茂紀さんは筑紫さんが18年間取り組んだ、『NEWS23』を振り返り今のジャーナリズムのあり方を問います。金平さんはその番組の編集長を務めました。その制作現場で筑紫さんと番組作りに関わった人たちに取材して書きました。

番組編集長だった金平さんは、舞台裏を語りません。クリントン大統領タウンホールミーティング、オウム事件、損失補填問題、阪神・淡路大震災、9・11米同時多発テロなど、当時、どのように伝えたかが多くの関係者が語り臨場感溢れる証言集でした。当時の熱気が伝わってきます。

音楽や映画、演劇といった文化にも造詣が深く番組には映画を紹介するコーナーがあったことも画期的でした。コロナ禍で多様な文化が大事にされていません。私が今、一番残念に思っていることです。

「多事争論」では、憲法、従軍慰安婦、格差社会といった硬派なテーマでこの国の行く末を論じました。

力の強いもの、大きな権力に対して監視する役割を果たそうとすること。少数派であることを怖れないこと。多様な意見や立場を登場させることでこの社会に自由の気風を保つことの3つを大事にしてきた筑紫さん。

金平さんのあとがきに「蔓延するメディア不信とか、マスコミ無用論に洗脳される前に、若い世代の人たちに、こんなに自由なテレビ報道の世界が、ついこの間まで、この日本という国にあったのだということ、是非とも知ってもらいたいと思うようになった。あの自由さ。あのアナキーさ。あの誠実さ」とあります。

「報道特集」も鋭い調査報道でいつも楽しみに見えています。数は決して多くはないけれど金平さんや佐古忠彦さん、松原耕二さん、膳場貴子さんらに『筑紫哲也NEWS23』のDNAは引き継がれていると思います。

「頭をあげろ！」まだ希望を失ってはいないと結んだ金平さんのことばは、別の苦しみと闘っている私にも響きました。



市民の立場にたって取材  
することが使命だ

地方メディアの逆襲

松元創著 ちくま新書 946円

北海道放送の「ネアンデルタール人は核の夢を見るか〜“核のごみ”と科学と民主主義〜」が文化庁芸術祭賞のテレビドキュメンタリー部門で優秀賞を受賞しました。北海道で突然降ってわいた核のごみ問題を全国の視聴者に知ってもらい、優れたドキュメンタリーでした。他の賞も受賞しています。このニュースを知る少し前に読んだのが本書です。

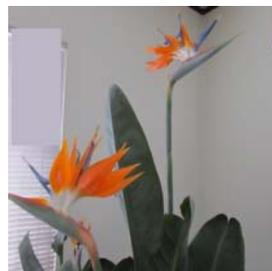
大手メディアが取り上げない問題を深く取材できるのは地方紙や地方のテレビ局です。著者の松本創さんも以前は神戸新聞の記者でした。そんな共感もこめて彼らはどのような信念と視点を持ってニュースを追いかけるのか？報道の現場と人を各地に訪ね歩き、地方からジャーナリズムを問い直したのが本書です。秋田魁(さきがけ)新報の徹底した市民の立場に立っての取材に感動しました。

秋田魁新報は陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の配備にかんする防衛相の調査報告書にずさんなデータに基づく誤りがあることをスクープし、新聞協会賞に選ばれました。同紙の報道で流れが変わり、翌年6月、秋田県と山口県に配備する計画は停止されたのです。地元の勉強会で「記事の切り抜きを手にした方が何人もおられるんです。そうか、これが新聞の役割だと。手ごわいものや大きな権力が相手でも、市民の代わりに取材し、疑問や知りたいことに答えていく。それこそが記者の使命なんだと原点を再確認しました」という担当記者の言葉が紹介されていました。こんな嬉しいことはないですね。

沖縄県知事選挙をめぐるネットデマを検証した琉球新報の取り組みも紹介しています。

地域の問題に踏み込み、議論を喚起し、人びとの生活がよくなるような手助けをする報道スタンスのことを「パブリックジャーナリズム」と紹介されています。

北海道新聞や北海道放送の取材がなかったのが少し残念でしたが「地方にこそジャーナリズムが生きている」と語る松本さんの言葉に、希望を持ちました。同時に地方メディアを応援していきたいと思いました。



ゴクラクチョウカは南アフリカが原産で色鮮やかな極楽鳥の飾り羽が花の姿に似ているから。花言葉は「輝かしい未来」です。

(撮影・神原照子さん)



## 韓国社会の“いま”が よくわかる

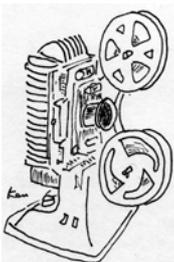
韓国カルチャー  
隣人の素顔と現在

伊東順子著 集英社新書 946円

韓国映画の名作といえば「タクシー運転手 約束は海を越えて」「パラサイト半地下の家族」「1987、ある闘いの真実」「ミナリ」など思いつくだけでもたくさんあります。コロナ禍で、映画館に足を運べなかった頃に、私がNetflixで観たのは「愛の不時着」でした。北朝鮮における韓流が話題になりました。

本書は近年話題となった小説、ドラマ、映画などのさまざまなカルチャーから見た、韓国のリアルな姿を考察しています。韓国人の思いや韓国事情を丁寧に教えてくれます。

私が最近ハマったのは本書にも登場する「賢い医師生活」でした。このドラマに登場する5人が大学に入学した1999年はIMF(国際通貨基金)体制下で富裕層の子も一般家庭の子も「同じ釜の飯」を食べてフラットな意識を培ったからだと言います。お金がない人には「あしながおじさん」を利用することができるのは、韓国の人々が大切にしているのは「困っている人を見たら助けること」。その精神がドラマに生きています。5人の医師たちは、ソウル大学の同級生で優秀なエリート外科医です。肝胆膵外科、脳神経外科、小児外科、胸部外科、産婦人科で40歳で助教授になっています。韓国の最先端医療の担い手でもあるのですが、患者に対する病状説明がとても分かりやすく説得力がありました。患者への接し方も素晴らしく、毎回ラスト近くで5人が演奏するノスタルジックな音楽も素敵でした。



## 女性の尊厳のために力を尽くした人生を描く

われ弱ければ 矢嶋楯子伝

山田火砂子監督

男女平等ランキングが156カ国中120位の日本。矢嶋楯子(かじこ)は

大正の時代に女性の地位向上にささげた先駆者です。禁酒・廃娼・一夫一妻制・新しい女子教育等に力を尽くしました。楯子(常盤貴子)米寿の祝いの席のスピーチ「これからの女性は使命をもって生きてください。使命とは、命を使うことです」にすべての思いがつかまっていて感動！札幌では3月末から上映されます。私は一足早く試写会で観ました。



楯子は熊本県に1833年に生まれ、武士の妻となり3人の子の母になりますが、酒乱の夫が小刀を持って暴れます。楯子は離縁を決意します。



上京し学び、小学校の教師になり、ミセス・ツルーから勧められ女子学院の初代校長になります。洗礼を受けてクリスチャンになり一切の校則を作らず「あ

1.29 監督、出演者の舞台挨拶 撮影・石井一弘さん

なたがたは聖書を持っています。だから自分で自分を治めなさい」と生徒を諭し、150年たった女子学院に今も受け継がれています。

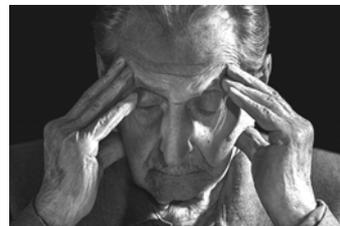
楯子の兄のところで学んでいた書生と恋に落ち、子どもを生ます。書生が東北に妻子がいることを知らされていなかったのです。人知れず生んだ娘を里子に出すのです。「われ弱ければ」の背景があまり伝わって来なくて著書を読み、楯子の苦悩が理解できました。

日本キリスト教婦人矯風会初代会頭を務め、90歳になる少し前にワシントンでの世界平和会議に出席して、平和運動にも尽くしました。映画にはこの場面はありません。著書も読むとより深く矢嶋楯子の人生に共感します。

## 国家と人は過去の過ちを忘れていない

ユダヤ人の私

監督クリスティアン・クレネス・フロリアン・バイゲンザマー・クリスティアン・ケルマー・ローランド・シュロットホーファー



ホロコースト証言シリーズの第二弾として製作されたのが本作です。監督は、「オーストリアの10代の若者の40%が、ホロコーストで600万人以上のユダヤ人が殺害されたことを知らない」という調査報告を挙げ、このシリーズを製作する理由を語っています。その記憶が薄れ、歴史が忘却されつつある今こそ観るべき映画です。岩波ホールで上映後、札幌のサツゲキでも上映されました。

ホロコーストの生存者であるマルコ・ファインゴルト(1913-2019)へのインタビューを記録したドキュメンタリー映画です。

取材当時、マルコは106歳。4つの強制収容所を体験し、怒りを力に生き延びました。戦後は10万人以上のユダヤ人難民をパレスチナへ逃がし、ホロコーストの自らの体験とナチスの罪、そしてナチスに加担した自国オーストリアの責任を、70年以上訴え続けました。とても106歳とは思えない明瞭な記憶力と、しっかりとした言葉に驚きと感銘を受けました。

歴史修正主義者らからのマルコへのメールも紹介されます。手紙は「お前を殺す」的な脅しがあれば、「ホロコーストなど嘘だ」というホロコースト否定論者からのものもありました。戦争を

知らない人に伝えたい自由の素晴らしさと、「国家と人は過去の過ちを忘れていない」とファインゴルトは、過去と地続きにある現在に警鐘を鳴らします。

インタビュー映像の合間には、当時のプロパガンダ映画や教育映画などのアーカイブ映像が挿入されます。戦争中の国が意図をもって制作した映像はどこか不自然でした。今、ロシアのプーチンが「ウクライナは核兵器を持っている」と言って

いるのと同じだと思いました。

ファインゴルトはオーストリアというひとつの国で暮らしていたにも関わらず、合併をきっかけに、ユダヤ人に対して暴力行為が繰り返されたという話も驚きでした。家族でただひとり生き残った彼を、ウイーンは拒否、そのためザルツブルグに終生住みました。もうファインゴルトの言葉を聞くことはできないのだと寂しく思いました。

## Cinema Graffiti 〈私の映画評〉 シネマグラフィティ

夢をあきらめない  
希望への道のりを描く  
『コーダ あいのうた』  
樋口 みな子

札幌映画サークル会報  
シネアスト  
2022年4月号  
掲載



フランス映画『エール！』（2015）のリメイクですが、シアン・ヘダー監督は新たなストーリーを描き出しました。“CODA”とは「ろう者の親を持つ子ども」という意味だと

知りました。ほとんど接することがないので、ろう者の悩みや葛藤、コーダが体験する不安を知ることがありませんでした。でもヤングケアラーが抱える孤独とは全く違った展開でした。

17歳のルビー役エミリア・ジョーンズの全く違和感のない手話と歌唱力に加えてチャーミングさも魅力です。ルビーはろう者である父母、兄の4人家族。手話で会話をし、互いに支え合い、笑い合います。

最初の場面は明け方の海に浮かぶ漁船です。少女の力強い歌声が聞こえてきます。慣れた手つきで大量の魚を引き上げていく父と兄、そして歌声の主はルビーです。「サムシング・ガット・ア・ホールド・オン・ミー」で、「何かは私の心をつかんで離さない」と歌います。耳が聞こえないことで周りから不当に扱われることがあっても、ロッシ家族は決してめげずに諦めません。言いたいことは言う。どの家族よりも賑やかです。

高校で合唱部に入ったルビーは、音楽教師のV先生に歌の才能を見いだされ、ボストンのバークリー音楽大への進学を勧められます。でも家族を支えることと、夢の間で揺れ動くのです。V先生から「歌う時の気分は？」と聞かれ、ルビーは手話で思いを生き生きと表現。字幕はないのに手、口、目で表現して気持ちが伝わってきました。「上手に歌うのではなく表現力なんだよ」と音楽の意味を教えられた気がしました。

ある日、ルビー抜きで父と兄は漁にでます。運悪く、その日は政府の監視員が船に同行。不正を犯せば漁の資格ははく奪されてしまいます。漁の最中に陸からの無線に気付かない親子に不安を感じた監視員が、海上警察に通報。事態は最悪な展開を迎えます。通訳なしでは外との交渉ができず、家業を手伝うのが大事だと反対されるのです。音楽が聴こえないのですから、ルビーの才能もわかりません。これを機にルビーは「やはり自分が残らなければ」と進学を諦めるのでした。「それでいいの？」と自分のことのように悲しく

なりました。

発表会の場面は完全に無音になる演出が秀逸。聴きにきた家族は、まったく聴こえないのに大勢の観客の拍手や涙ぐむ人たちの姿に、ルビーの才能を初めて知るのでした。演出の上手さが秀逸で心が揺さぶられました。監督が徹底的にろう者の視点に立ちながら制作したからだと思います。父母、兄も実際のろう者が演じているので、リアリティがあります。いろんな職業がありますが、俳優として生きている姿に驚きと感動を覚えました。

父は、自分のために歌ってくれと頼みます。ルビーが選んだ曲は「ユア・オール・アイ・ニード」。喉のバイブレーションで歌を味わう父の姿は何度もみたくなるほど素敵な場面でした。声が聴こえなくても娘の歌を全身で受け止める姿に涙があふれました。この曲はルビーと同級生のマイルズとの仲を取り持ちきっかけにもなりました。愛のメッセージがこめられています。



音大でのオーディションでルビーが歌ったのはジョニ・ミッチェルの名曲「青春の光と影」。「今私は人生を両側からみつめてい

る。勝者の側や敗者の側から。でも振り返ってみると人生の幻影だって気がついたの。人生なんてわからないもの」といった歌詞がいいですね。いい曲だと思って、歌詞の意味を探しました。V先生がルビーに語ったことばでした。この曲をルビーは歌声と手話で表現し、見事に融合させました。

コーダは音楽記号で、「ひとつの楽曲の締めくくり」という意味もあります。ルビーと家族は力強く次の楽章に進むのでしょうか。希望への道のりが生き生きと描かれて共感しました。場面の随所に的確で素敵な音楽があり重層的で物語を豊かにしています。

監督は「映画は共感や思いやりを生むツール。健聴者とろう者のコミュニティは分断もされてきたと思うけど、誰もが同じように葛藤し複雑な人間関係を抱えている。自分ではない誰かであることがどういふことか、想像し、体験してもらえたら嬉しい」と語っています。120%の感動を味わいました。

© 2020 VENDOME PICTURES LLC, PATHE FILMS

# 各地からの写真だより



2月末、鳥取県米子市から見た大山(撮影・澤耕司さん)



まだ雪深い2月末の江別。雀が一斉に「平和に生きたい」とさえずっているようでした。

(撮影・Minako)



2.28 札幌ロシア総領事館前で「戦争止めて」とスタンディング(撮影・飯島秀明さん)



国立市の富士見台で一人スタンディング。ライアー(堅琴)と笛で演奏して

います。「いま黙ってないで声にいま諦めないで言葉に」  
(撮影・田中雄二さん)

## 編集後記

●ようやく春めいた日々にホッとしています。今まで経験したことのない、どこか雪に苦しめられた冬でした。2月の末に4日間昼夜を問わず降り続き、庭側の窓4面全部が塞がった時は、心底震えあがりました。なんとか排雪業者さんと連絡がつき難を逃れました。数週間前には、近所の友人や山の友人が来てくださり雪のかき出しを手伝ってくれました。電話をくださった方もいます。みな読者で、こんなに心強かったことはありません。●昨年12月に朝日新聞記者として健筆をふるい、作家としても活躍された外岡秀俊さんが急逝されました。夫の札幌南高校のクラスは違いますが同級生でした。朝日連載の「道しるべ」を夫と楽しみに読んでいました。亡くなる1か月前、保健所の奮闘を描いたドキュメンタリー映画「終わりの見えない闘い」を観にいらしていた姿を見つけたのに、人が多くて声をかけることができませんでした。私がweb読者にお知らせしたメールを見ていらしてくださったと上映終了後に話す機会があった友人から聞きました。夫はその頃、とても病状が悪く人工呼吸器をつけていた姿と重なります。当時はドラマなどで登場する人が亡くなる場面に遭遇すると、いたたまれない気持ちになり見続けることができない日々でした。身近な自然を眺めて自分をいやしていました。ようやく、一人で背負わずに、辛さを吐き出すことも必要だと思ふようになりました「道しるべ」に1行だけ私の名前が載ったことがあります。仕事をしていた頃ベアテ・シロタさんにインタビューしたことがあり「平和憲法は歴史の英知だと語った」ことが書かれています。ベアテさんにインタビューした記事はwebの投稿からご覧ください。(み)



2月大磯の海(神奈川県)春光(撮影・石川旺さん)

今号から文字を少し大きくしました。読者のみなさまからの投稿(1000字前後)と写真もお待ちしています。感想も是非お寄せください。(み)

購読料と寄付をありがとうございます  
(敬称略) 2022. 1. 8~ 2. 21

岡本恵子 久野真紀子 伊藤功 内田篤のり 高橋 備(切手多数も) 高橋春枝 合田美津子 寺島一男 柴崎 徹 鎌田直子 窪川典子 川原勝利 森 隆子 岡村雄二 河原麻代 増子捷二 戸谷真智子 合計65,000円と切手は印刷と送料に使わせていただきます。「銀河通信」02740-7-56535 年間2,000円です。振込手数料が値上げしました。ATMで通帳かカードで入金すると手数料は152円です。現金を入れると262円かかります。ゆうちょカードをご利用ください。2022年度もよろしくお祈りします。